

## プレイステーション用 メモリーカードリーダーキット

プレイステーション用のメモリーカードのデータを本体、メモリーカードの改造なしで読み書きできるキットです。



プレステーション用  
メモリーカードライター  
キット

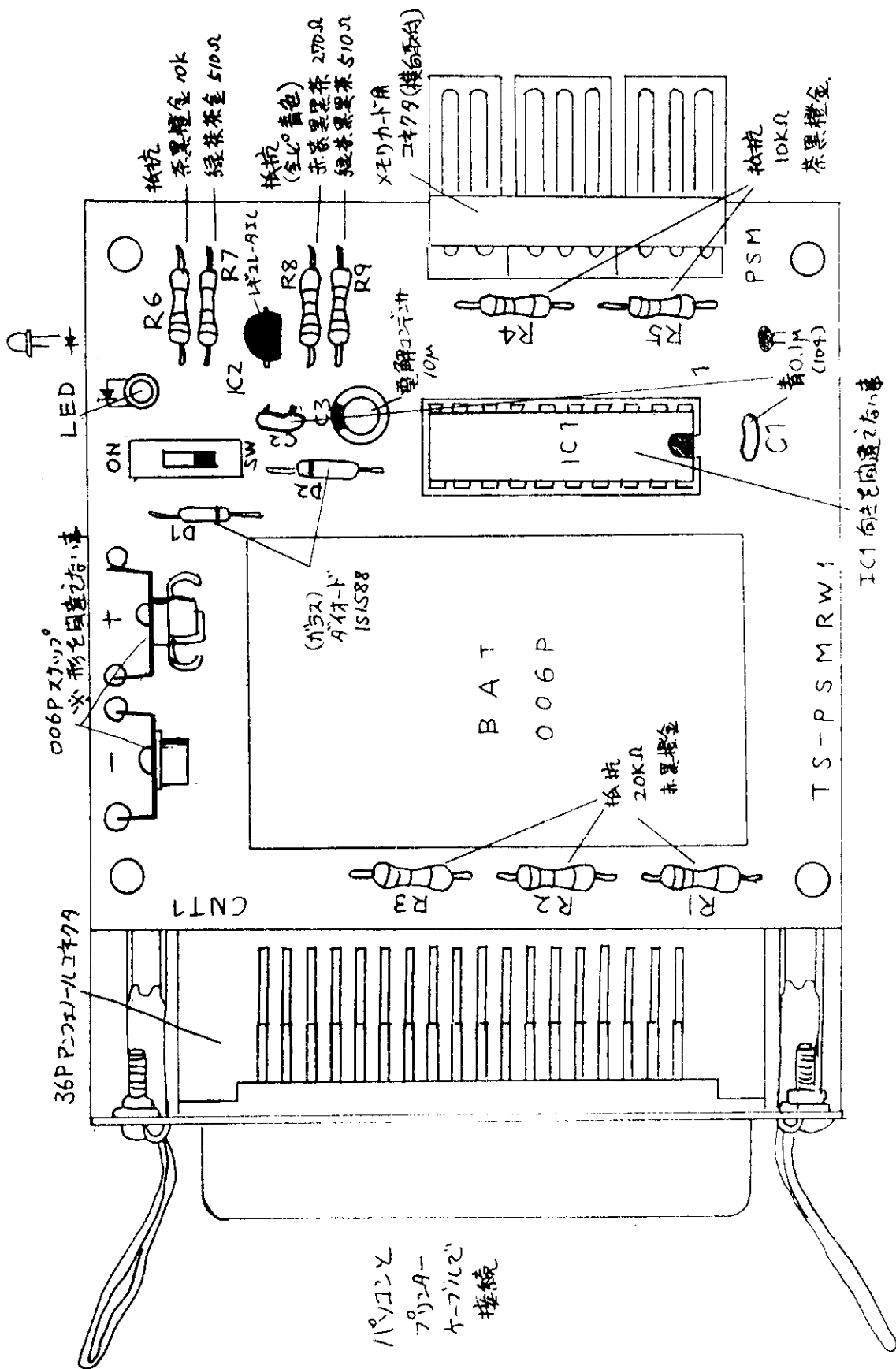
## ■概要

- ★プレイステーション用のメモリーカードのデータを本体、メモリーカードの改造無しで読み書きできるリード・ライター・キットです。
- メモリーカードより読み込んだデータを、通常のファイル感覚でパソコンに登録出来ます。
- 又パソコンに登録したデータを、選択してメモリーカードに書き込む事ができます。
- ファイルはPCのハードディスクの容量に伴い、幾つでも登録する事が出来ます。
- ファイルをメール転送等で仲間とのデータ交換も可能です。
- ★パソコンは、PC98、DOS/Vどちらにも対応。
- ★リードライトソフトは、Windows 95/98専用が付属。
- ★パソコンとは、パラレル（プリンタ）ポートを使用しますのでプリンター感覚で接続出来ます。
- ★電源：DC9V（006P）20mA以下

## ⚠注意

- ・当キット及びソフトウェアにより、メモリーカード内のデータが破損した場合は、その責任を負いかねますので、個人の責任の上で制作、接続、電池容量の確認、ショート等による破損には十分のご注意をお願い致します。
- ・当キットでは、メモリーカードのフォーマット機能は有りませんのでプレイステーション本体でフォーマットしたメモリーカードをお使い下さい。
- ・このキットは、両面ガラス・スルホール基板を使用しています。間違っって部品をハンダ付けしますと、部品を取るのが専用工具でなければ大変な場合が有ります。回路図、パーツリスト等を十分に確認してからハンダ付けして下さい。

■メモ리카ード・リードライターの実体配線図



## ■ソフトウェアのインストール

このキットには、メモリーカード・リードライタよりデータを読んだり書き込んだりする為のソフトウェア（3.5インチフロッピー）が付属しています。

動作する環境は、Windows 95です。Windows 3.1では動作しませんので注意して下さい。

このフロッピーには、

Wpsm11.exe	324KB
説明書.doc	6KB

の2つのファイルが入っています。

まずは、インストールの前に説明書.docを読んで下さい。

1. パソコンのハードディスクに適切なフォルダを作り、2つのファイルをコピーして下さい。

2. Wpsm11.exeをダブルクリックして実行します。

このプログラムは、自己解凍型の圧縮ファイルになっており、実行すると先程作成したフォルダの下に、Wpsmと言うフォルダを自動的に作成し次の5つのファイルを解凍生成します。

Winpsm.exe	リードライタプログラム本体	Winpsm
Winpsm.hlp	ヘルプ・ファイル	
Winpsm.cnt	ヘルプ用コンテンツ・ファイル	
Winpsm.bmp	ハードの回路図	
TEST01.PS	Winpsmで吸い上げたデータ	

3. Winpsm.exeをダブルクリックするとプログラムが実行します。

必要に応じてショートカットを作成しておくとう便利です。

4. Winpsmを実行しますとWinpsmのウィンドウが開きます。

5. 次に初期設定を行います。

Winpsmのウィンドウの下の「Option」と言うタブをクリックします。オプションのウィンドウが現れます。

基本的には「Easy Set」でお使いのパソコンを選択します。

DOS/Vには3種類、PC98には2種類の、パラレルポートアドレスが存在しています。「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」「ポート」「プリンタポート」をダブルクリック「リソース」のI/Oポートアドレスを確認します。

「Easy Set」の5つのボタンの自分のパソコンに該当するスイッチをクリックして、ウィンドウ上のDATA ADDRESS(D)\*\*\*Hが、先程確認したI/Oポートアドレスと一致した所で「Set(T)」をクリックして設定完了です。

6. 実際に書き込み済みのメモリーカードを差込みます。

ウィンドウを「MemCard&PSFile」の初期画面へ戻します。

右の7つのスイッチの一番上、「MemCard Access(M)」をクリックします。

PS MemoryCard(C)の窓に、メモリーカードより読み込まれたデータがアイコン付きで表示されます。これで動作が確認されました。

※上記インストール、設定、細かな操作方法等は、ヘルプに書かれておりますので、全てのページに目を通しておくことをお勧めいたします。

※FMV5150をお使いの方。標準設定では動かない場合があります。その場合ポートアドレスを378から278に変更してお使い下さい。

■ パーツリスト

名 称	記 号	型 番	数	備 考
IC	IC1 IC2	□ 74HC245 □ LM317LZ	1 1	C-MOSロジックIC 可変3端子レギュレータ
ダイオード LED	D1, D2 LED	□ 1S1588 □ SLP-8118A	2 1	汎用ダイオード 赤色発光ダイオード
抵抗	R1, R2, R3 R4, R5, R6 R7 R8 R9	□ 20KΩ □ 10KΩ □ 510Ω □ 270Ω □ 510Ω	3 3 1 1 1	赤黒橙金 1/4Wカーボン 茶黒橙金 " " 緑茶茶金 " " 赤紫黒黒茶 " 金属皮膜 緑茶黒黒茶 " "
コンデンサ	C1, C2 C3	□ 0.1μ (104) □ 10μF	2 1	(104)積層セラミック 電解コンデンサ
電源スイッチ 36P・コネクター メモリーカード用 コネクター 専用基板	SW CNT1 CNT2	□ SS-12SDP2 □ 57RE-40360 □ ハンド・メイト □ TS-PSMRW1	1 1 1 1	1回路2接点スライツSW 36ピン アンフェノール タイプ 2-3-3手作りコネクタ 両面スルホール・ガラス基板

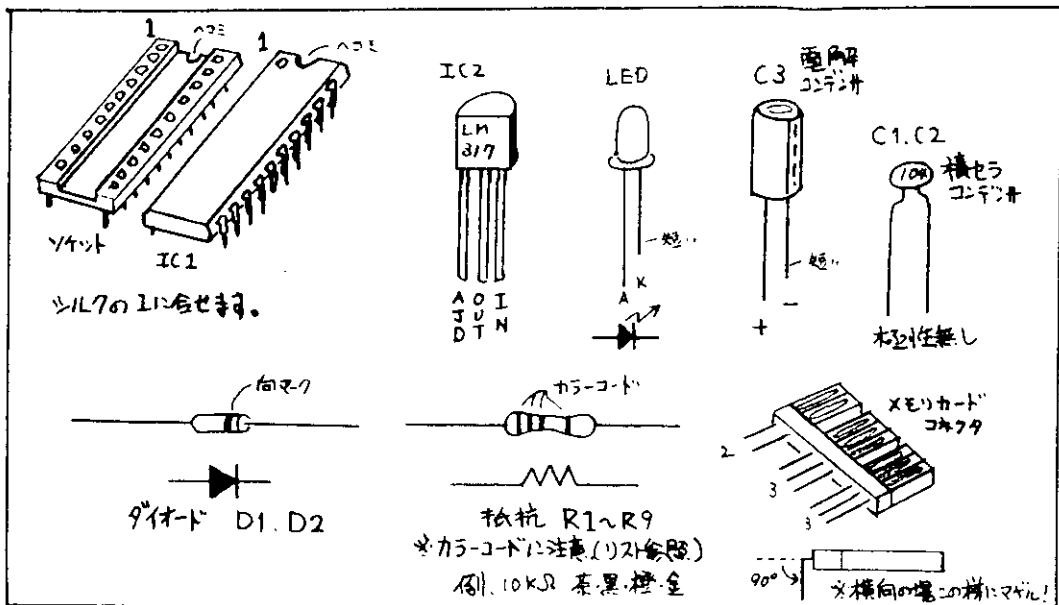
★制作の前に、上記部品・数量をご確認下さい。万一不足等が有りましたら、お手数でも制作前にお申し出下さい。

★改良の為、予告無く部品点数が変更になる場合が有ります。その際は変更・訂正データが折り込まれていますので、そちらをご覧ください。

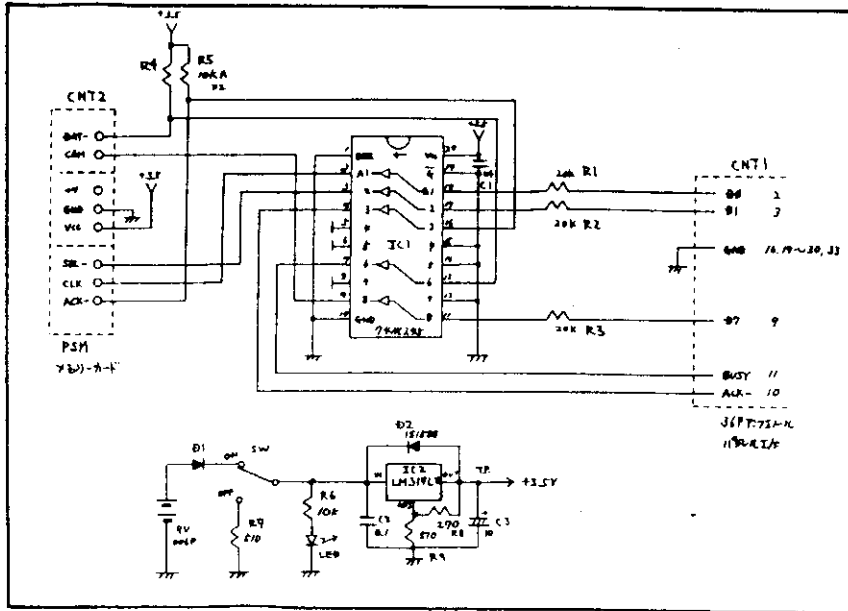
★メモリーカード用のコネクターは、ハンドメイド加工品です。

取り付けの前に、メモリーカードがピッタリと差し込まれるか確認し、もし引っかかり等が有る場合はバリをカッターナイフ等できれいにして下さい。

■ 使用部品の極性・形状・注意



## ■回路図



## ■回路図について

回路に関しては、回路図をご覧いただければわかるように、メモリーカードとPC間はトリステートのシュミット・バッファにて入出力しているだけの回路です。ほとんどの処理はソフトウェア側で行います。メモリーカードの電源はLM317LZ（可変3端子レギュレーター）が約3.5Vを作っています。電流は10数mA程度しか流れませんので006P（9V）のバッテリーで駆動します。但し電源監視等の回路は持っておりませんので、バッテリーが5.5Vを下回るとLM317が3.5Vを保てなくなりますので注意が必要です。メモリーカードの電源電圧が小さくなりますと、メモリーカード内のCPUの動作が正常で無くなりますので、場合により書き込み、読み込み時にデータの不具合を生じる可能性がありますので注意が必要です。

2本のダイオードは、電池の極性誤接触防止と電源OFF時PCからの電流回り込み防止用です。

PCとの接続は、36Pのアンフェノールタイプのコネクター（標準プリンター用コネクター）で接続されパラレル信号でやり取りしますので、当キット基板をプリンターと考えると接続して下さい。

## ■組立

1. まず背の低い部品から取り付け半田付けしていきます。D1, D2, R1~R9を取り付けます。ダイオードは極性が有りますので「使用部品の極性・形状・注意」を参照して取り付けて下さい。
2. ICソケット（1番ピンは下側ですので注意）、LED、C1、C2、C3の順でパーツで確認しながら付けていきます。C3は極性が有り、長いリードを+に合わせて取り付けます。
3. IC2のLM317とSWを取り付けます。IC2は極性が有りますので基板上のシルク印刷に形状及び向きを合わせて取り付けます。

- CNT 1、CNT 2、のコネクタとバッテリースナップを取り付けます。CNT 1の36Pコネクタはまず基板に載せたら2箇所を半田で固定してからピンを半田します。ピンの間隔狭いので隣とショートしないように注意して下さい。CNT 2のメモリーカード用コネクタは、手作り加工品ですから取り付ける前にバリ、削り粉等を取り除き、取り付ける前にメモリーカードがスムーズに刺さるか確認し、引っかかりの有る場合は事前にカッター等で修正して取り付けます。基本的には縦付けですがコネクタのピンを90°曲げて横付けも可能です。バッテリースナップにも極性が有りますのでシルク印刷の形にと合わせて垂直に成るよう取り付けます。
- IC1の74HC245をソケットに差込ます。但しICの向きが通常とは逆さまに成っていますので注意して下さい。

## ■調 整

このキットは、完全無調整です。部品の最終確認をします。間違いのないこと電源スイッチがOFF（下側）を確認後、バッテリースナップに006P電池を接続します。電源SWをON（上にスライド）で赤LEDの点灯を確認します。基板上のTP（+）とGのチェック端子間の電圧が、3.5V前後であればOK。電源をOFFにします。ソフトウェアをインストールしてプリンタケーブルをPCと当キットとに接続します。書き込み済みのメモリーカードを装着し、ソフトウェアを起動し、階設定を行います。右上の「MemCard Access(M)」をクリック、画面にメモリーの内容が表示されれば動作OKです。後は、ソフトウェアのHelpをご覧ください。

## ■最 後 に

このキットの制作に当たり、ソフトウェアは高山一郎さんが制作致しましたフリーウェアです。より多くの個人の方にプレイステーションをより楽しく使って頂くためにご提供頂きました。末永くお使い頂きます様お願い致します。PSMソフトウェアもバージョンアップする場合がありますが、その場合「秋月電子ホームページ」FTP等にて提供致しますのでご了承ください。

PSMリードライタキットマニュアル第三版  
Copyright 1998 June TriState Y.Yoshikawa

問い合わせは下記へ郵便かメールにてお願い致します  
〒053-0852

苫小牧市北光町4丁目11-19 篠永ビル1F  
有限会社 トライステート

tristate@ains.tomakomai.or.jp

<http://www.tomakomai.or.jp/kawara/tristate/>

ソフトウェアに関するお問い合わせは下記まで

GDH00232@niftyserve.or.jp

(伊津 朗) 高山一郎